

# 一般旅客船及び遊漁船による海難事故事例

---

# 一般旅客船と遊漁船の事故発生状況

- 一般旅客船と遊漁船の10年間の「船舶事故隻数※1」及び「事故発生率(=船舶事故隻数/隻数※2)」は、以下のとおり
- 単年毎の差はあるが、10年間の平均船舶事故発生率、死傷者を伴う船舶事故発生率は概ね同水準

## 一般旅客船と遊漁船の事故隻数 ( )は、死傷者を伴う事故隻数を示す

単位:隻

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計	平均
一般旅客船	42(3)	40(4)	48(3)	61(5)	38(8)	56(10)	44(7)	32(3)	33(2)	33(4)	427(49)	43(5)
遊漁船	76(9)	71(5)	61(7)	65(12)	57(10)	80(15)	69(11)	62(9)	80(6)	93(10)	714(94)	71(9)

## 一般旅客船と遊漁船の事故発生率



※船舶事故  
海上において船舶に次のいずれかに該当する事態が生じた場合をいう  
衝突／乗上／転覆／浸水／爆発／火災／行方不明／機関、推進器、舵等の損傷又は故障その他運航不能等

※1 海上保安庁「令和4年 海難の現状と対策」の数字を使用  
※2 一般旅客船隻数は10535隻(国土交通省、R3.4時点)、遊漁船隻数は16541隻(水産庁、R5.3時点)の数字を使用

# 一般旅客船及び遊漁船の海中待機に伴う死傷事例

低体温症とはならなかったが、さらに水温が低かった場合には低体温症を発症するおそれがあり、改良型救命いかだ等の有効性が見込まれた事例

## 事故概要①(一般旅客船)

※運輸安全委員会 船舶事故調査報告書(令和5年1月19日)

- 2020年11月19日16:36頃、一般旅客船(19トン、乗員・乗客62名(52名は修学旅行中の小学生))が香川県羽佐島北西方沖で干出岩に乗り上げ。
- 船底外板の破口から浸水し、17:25頃沈没。
- 事故発生後、乗員乗客は、全員救命胴衣を着用のうえ、船外に脱出、救命浮器を使用し海水中にて救助待機(水温は約20℃)。
- その後、巡視船艇、付近を航行していた漁船等により全員救助。
- 乗客1名が誤嚥性肺炎により5日間の入院加療、乗客3名が軽傷。

## 事故概要②(遊漁船)

※運輸安全委員会 船舶事故調査報告書(令和2年6月24日)より

- 2020年11月2日06:40頃、遊漁船(8.5トン、乗員・乗客11名)が新潟県佐渡市弾埼北西方沖を航行中に浅所に乗り上げた。
- 自力で離礁も、船首客室に浸水を確認。
- 07:00頃、海上保安庁へ救助要請。07:30頃、左舷側から転覆。
- 乗員乗客は、救命胴衣を着用<sup>のうえ</sup>、全員船外に脱出、クーラーボックス等につかまりながら海水中にて救助待機(水温は18~21℃)。
- 08:10頃、来援した漁船により、全員が救助。
- 乗員1名が肺水腫で入院の重傷、乗客3名が軽傷(外傷性頸部症候群等)。

# 一般旅客船及び遊漁船の海中待機に伴う死傷事例

長時間(約7時間)の水中待機により死亡、改良型救命いかだ等の搭載で水上待機が見込まれた事例

## 事故概要③(遊漁船)

※運輸安全委員会 船舶事故調査報告書(平成21年12月18日)より

- 2008年9月21日06:30頃、**遊漁船**(3.2トン、乗員・乗客10名)が佐渡島一新潟港間を航行中に船尾プロペラ点検口から浸水を確認。
- 06:45頃**沈没**。
- 事故発生後、乗員乗客は、救命胴衣を着用(5名が着用)のうえ、全員船外に脱出、救命浮環やクーラーボックスを使用し**海水中にて救助待機(水温は25°C)**。
- 13:45頃、海上保安庁巡視船艇により、9名が救助。
- 乗客1名は海没**(未救助、後日遺体で発見)。
- 乗員・乗客2名が死亡**(低体温で硬直し、肺に海水が入り、溺死)。
- 乗客2名がいずれも肺炎症状により、数日間入院する軽症。

水温が20°C未満で低体温症となり、改良型救命いかだ等の搭載で低体温症の防止が見込まれた事例

## 事故概要④(遊漁船)

※運輸安全委員会 船舶事故調査報告書(令和5年10月25日)より

- 2022年3月13日14:35頃、**瀬渡船**(14トン、乗員・乗客15名)が鹿児島県枕崎市枕崎港南方沖を航行中に**機関室から出火**した。
- 消火を試みるも断念、海上保安庁及び枕崎港の同業船に**救助を要請**。
- 乗員乗客は、救命胴衣を着用のうえ、全員船外に脱出、救命浮環のロープにつかまり**海水中にて救助待機(水温は18°C)**。
- 15:30頃、救助船により、**全員が救助**され、枕崎港へ入港。
- 乗客9名が病院へ搬送(**4名が低体温症**、1名が熱傷、4名が症状なし と診断)。

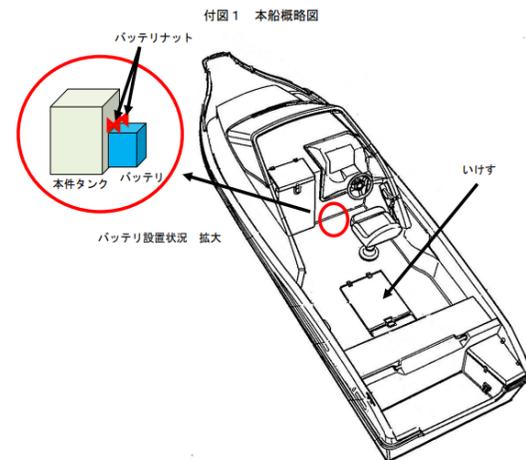
# 船外機艇の火災事例

船外機艇であっても火災により退船(水中待機)した事例。水温が低い場合に改良型救命いかだ等の活用が見込まれた事例

## 事故概要①

運輸安全委員会 船舶事故調査報告書(平成28年7月14日)より

- 2015年5月9日08:00頃、プレジャーボート(5トン未満、船長1名)が沖縄県宜野湾西方沖において機関を停止し漂流中、操縦装置左舷側付近に置いていたバッテリーとガソリン携行缶(本件タンク)の間から火災が発生。
- 海水を汲んでの消火を試みるも、断念し、船尾から海に飛び込んだ。
- 防水ケースに入れた携帯電話で知人を通して海上保安庁及びマリナーに救助要請、来援したマリナー所属船にて救助。
- 船長は、右足首火傷の軽傷を負った。



### 【原因分析】

漂流中、バッテリーナットが本件タンクに接触したため、バッテリー端子間が短絡して出火した可能性があると考えられる。

## 事故概要②

運輸安全委員会 船舶事故調査報告書(令和3年8月25日)より

- 2020年10月28日8:10頃、漁船(1.3トン、船長1名)が宮崎県石巻市鮎川漁港において操業中、左舷船尾のバッテリー区画から火災が発生。
- 携帯電話で友人へ救助を要請、消火を試みるも断念し、船首部において救助待機、来援した僚船に救助された。

### 【原因分析】

バッテリー、バッテリー端子部等に異常が発生したことから、左舷船尾のバッテリー区画から出火した可能性があると考えられる。